



「長崎原爆の日」

「原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」

◎記事から読み取ろう

○最も主張したい部分はどこでしょうか。

それぞれを整理しよう。
・田上富久市長の平和宣言

・安倍晋三首相のあいさつ

・田中照巳さん（被爆者代表）

・グテレス国連事務総長



原爆投下から73年を迎え、長崎市の平和公園で営まれた平和祈念式典＝9日午前

長崎被爆73年

長崎は9日、被爆から73年を迎え、長崎市松山町の平和公園で平成最後の原爆犠牲者慰霊平和祈念式典が営まれた。原爆投下時刻の午前11時2分、参列者が黙とう。田上富久市長は平和宣言で、核兵器保有国と同盟・友好国に「核に頼らぬ安全保障政策に転換を」と促した。政府にも核兵器禁止条約に賛同し、唯一の戦争被爆国として、世界を導く道義的責任を果たすよう求めた。

平和宣言 政府に禁止条約促す

核に頼らぬ安全保障を

昨年条約不参加を「どうも理解できない」と直言したが、厳しい安保環境を理由に政府は拒否の姿勢を堅持。いら立ちは募るが、今年対峙ではなく核廃絶への具体的工程を共に模索するスタンスを取った。

安倍晋三首相はあいさつで、6日の広島原爆の日と同様、保有国と非保有国の橋渡しが必要だと強調。その後記者会見で、核禁止条約は「安全保障の現実を踏まえていない」と批判し、不参加の考えを改めて示した。

不参加の考えを改めて示した。現職として初参列したグテレス国連事務総長は核保有5カ国の代表が見守る中「核廃絶は国連の最優先課題。長崎から全ての国に、目に見える進展を求める。保有国には特別な責任がある」と表明。長崎を最後の被爆地とするよう訴えた。

宣言は、反核運動の象徴的存在で昨年8月に88歳で死去した谷口穂積さんが、戦後世代の戦争や核に対する向き合い方に懸念を示していたと紹介。憲法の平和主義を次世代に引き継ぐ大切さを強調した。原発事故からの復興に努める福島にも8年経って言及し、励ましの言葉を送った。

日本原水爆被害者団体協議会（被団協）の代表委員で埼玉県在住の田中照巳さん（86）が被爆者代表として「平和への誓い」を朗読。原爆使用を「人間の行為として絶対に許されぬ」とし、核と戦争のない世界実現へ尽力すると約束した。

長崎市によると、3会場での式典には被爆者や遺族、計11カ国の代表ら計約6千人が参列した。7月末までの1年間で被爆者3443人の死亡を確認。今年から、国が定めた地域外で原爆に遭った被爆体験者も死没者名簿の対象とし、記載総数は体験者54人を含む計17万9226人となった。

厚生労働省によると、被爆者健康手帳を持つ人の数は、3月末時点で15万4859人。平均年齢は82.06歳。

（佐賀新聞 2018.8.10 付）

7月末までの1年間で死亡が確認された人は _____ 人

記載総数は _____ 人

「原爆の日」に寄せて 考えたこと・思ったことを書こう。

